

3月定例活動

## 竹林整備&amp;竹柵改修



オアシスの森くらぶでは、例年3月の定例会を「萌木まつり」と銘打ち、会員相互の親睦をはかっています。

今年の「萌木まつり」は、東日本大震災のちょうど2週間後です。今回定例会は震災で被災された方々への追悼の意味もあり「まつり」を自粛して、竹林整備と山根口の竹柵改修の2班に分かれ活動を行

うことにしました。

竹林整備班は、午前中は山根口北の道路に面したエリアの整備です。常連のメンバーに加えて金森夫妻のお孫さん2人にも手伝ってもらいました。雑木に竹が進入してしてきた場所で、昨年手を入れた際には完全な除伐には至らず一部竹が残っていましたが、今回ほぼ竹を完伐することができました。

午後からは場所を変えてとんぼ池北斜面の竹の除伐をおこないました。

くらぶ創設以来何度も手を入れている場所ですが、手を抜くと途端に竹が進入してきます。個人的には中途半端に感じましたが、切りの良いところで作業を終えました。

作業後のすっきりした森を眺めると気分が晴れます。

\* \* \*

一方、竹柵改修班は腕に心得のある熟練の皆さん4名で取り組み

ました。

ほんの少しの打ち合わせの後、あうんの呼吸で黙々と作業が進みました。皆さん各自の判断で動きながらも全体できれいにまとめ、時間内に見事な竹柵が完成しました。これで気持ちよく新年度が迎えられるそうです。



▲改修後、見事に生まれ変わった竹柵

今回定例会「まつり」は中止となりましたが、2班とも良い仕事が出来たと思います。

最後に今回の震災に遭われた方々に対して心からお見舞い申し上げます。(村田・眞弓)

## この冬の竹炭焼き報告

昨年9月の定例会に除伐、準備しておいた竹材によいよ火を入れる日が来ました。

1月9日早朝7時集合。この時期としては比較的暖かく恵まれました。村田さんをリーダーに6名が参加。



▲窯の温度を一定に保つため、うちわを扇ぎ続ける

去年の小生、ただひたすらうちわを力任せにあおっていた記憶しかありません。知識も身につけたいと臨んだのですがトータルの印象はやっぱり温度の維持に精一杯でした。

まずは40度、その後は80度を超えるところまで数人でひたすら送風、交代を繰り返します。



▲日本酒で暖をとる参加者(決してこれが目的で参加するわけではありません、念のため)

この頃になると少し余裕、差し入れの日本酒で体内からの暖を取りながらの作業、これも楽しみ。

作業中、森を散策される方々も会話に加わり啓蒙の一端も果たしているのかと思います。

水蒸気を含んだ白色から送風を止める直前の透明な青っぽく変化

する煙の色、ここで酸素を遮断釜の中を想像しながら出来上がり待ちます。

後日、積み重ねた中段はまああの出来、最下段には生焼けもありました。次への反省材料です。



▲後日の窯出しのようす

その後、2月19日二度目の炭焼き、参加は8名、酒盛りはやはり盛況でした。(早川)